

(1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
学習指導	<p>(1)英語、国語、数学の週課題の生徒への計画的な提供を行い、課題回収率90%を目指す。</p> <p>(2)家庭学習時間の調査を年間5回実施し課題内容の精選により</p> <p>①家庭学習時間の平均が1.0時間を超えることを目指す。</p> <p>②家庭学習時間0の生徒の低減を目指す。</p> <p>③授業交流を年間2回実施する。6月・11月を予定し、授業内容・生徒活動・その他情報交換を行い授業内容の向上を目指す。</p>	<p>(1) 1年生で91.5%。2年生で86.8%。トータルで89.1%となり、目標である回収率90%には達することができなかった</p> <p>(2)①平均学習時間は1年生が1.1時間、2年生は0.9時間と昨年度とほぼ変わらない。</p> <p>②家庭学習時間0時間の生徒は9～15%で、昨年度より若干増加傾向であった。</p> <p>③参観シート提出数は、6月が10人、11月が29人であった(52名対象)。提出率は低い、「他の教員の授業が大変参考になった。」という意見が多くあった。</p>	<p>週課題未提出者は、欠席が多く補習等の対象者が多い。また家庭学習時間も0である。また課題提出者においても次のような課題がある。</p> <p>・授業の合間や、提出日前日に急いで解答を写す等で週課題を終わっている生徒がいる。</p> <p>・覚えよう、理解しようという意欲が伴わず義務的に取り組んでいる面がある。</p> <p>本来の目的である「学習スタイルの確立」「確かな学力の定着」を目指し、日々の懇切丁寧な生活指導・学習指導が必要だ。生徒アンケートでは「授業を理解するため積極的に努力している」が全体平均 33%と低く、「自ら進んで学習する力」を身につけるための授業内容・指導を考えていく必要がある。</p>
生徒指導	<p>①学年、家庭と連携し遅刻指導を徹底させ、その数の3割減少に努める。</p> <p>②貴重品や自転車などの管理を徹底させ、物を大切にすることを育てる。</p> <p>③学年と連携し頭髪や制服指導を徹底させ、規範意識の向上に努める。</p> <p>④挨拶運動の推進や登下校指導などを通し、社会的マナーを身につけさせる。</p>	<p>①昨年度比22%減少で未達成。しかし多遅刻で早朝指導を受けた生徒数、その内再指導を受けた生徒数は大きく減少した。</p> <p>②自転車の乗り捨て数は昨年度より減少。しかし現金盗難は昨年度0であったのが、今年度に何件か発生し非常に気になる。</p> <p>③ネクタイ、・ヤツ出し(男子)、スカート丈、カーディガン(女子)に違反者が多い。頭髪に関しては検査不合格になる生徒数は昨年度に比べて減少した。</p> <p>④毎朝の校門での挨拶指導で自分から挨拶をする生徒は半数程度である。また通学路、電車内でのマナー等に関しては、依然として苦情がある。</p>	<p>②貴重品の管理を一層徹底させたい。また自転車の乗り捨ては、ほとんどが鍵のかけ忘れが原因であり自転車の2ロックも一層指導したい。</p> <p>③全校生徒が制服になり、制服をきちんと着る指導徹底のため、学校生活のあらゆる機会に教員全員での服装終日指導を毎月2日設けた。</p> <p>④苦情をいただくと、その都度HR指導や集会で講話を行っている。今後も根気よく何回も繰り返し生徒に指導を続けていきたい。毎朝、登校時の安全指導を教員が行っているが、地域からはご苦労様という声掛けをいただくことがあり、励みになっている。全体を通して、学年、家庭との連携を一層密にし生徒たちへの指導を続けていきたい。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">進路指導</p>	<p>職業や学部・学科についての関心を高め進路に関する資料の貸出率を昨年度より15%増加させる。</p> <p>②進路に関する資料を充実させ自ら望む進路実現度80%をめざす。</p> <p>③「模擬試験の記録」の活用度80%をめざす。</p> <p>④学年の枠を超えて生徒の進路指導をサポートする体制を整える。</p> <p>⑤四年制大学進学率75%をめざす。</p> <p>⑥センター試験受験者数220名(第3学年生徒の70%)以上をめざす。</p> <p>⑦進路新聞「年25号」の発行と、学年別「進路だより」年10号を発行する。</p> <p>⑧保護者向け進路講話を充実させ、情報提供等を含めた満足度85%を目指す</p>	<p>①前年度比30%を超える増加で達成。</p> <p>②進路実現度・・・生徒へアンケート調査結果は81%で達成。</p> <p>③総合学習などで準備や指導時間も確保されたが、十分な活用は出来ていない。</p> <p>④1・2年担任学習会、大学出願指導学習会を年間計画に位置づけ計5回実施した。</p> <p>⑤4年制大学進学率は3/7現在で約70%で達成は難しい状況。</p> <p>⑥第3学年生徒の66%に相当する206名が受験した。(一昨年178名、昨年202名)</p> <p>⑦教職員向「進路新聞」は20号、1学年通信は12号、2学年通信は11号と進路だより6号、3学年だよりは11号と進路だよりを18号発行した。</p> <p>⑧3年生保護者アンケートで、進路情報提供80%、進路関連行事84%、進路指導全般85%の「満足(参考になった)」、「おおむね満足」との回答を得た。</p>	<p>②推薦入試で進学先を決定するのではなく、一般入試まで粘り続けて第1志望校に合格したいと考える生徒が増えている。また推薦入試等ですでに進学先が決定していても、大学入学までの期間の学力を保持し気持ちを切らさないためにセンター試験を受験した生徒も少なくない。まさに学年全体で個々の進路実現をめざす「受験は団体戦」そのものが今年も表れた結果だと考える。</p> <p>④生徒の進路指導をサポートするため教員の技量を高める取組の中身も少しずつ充実したものとなってきている。来年度以降もより発展させていきたい。</p> <p>⑧保護者より「四年制大学以外の情報が足りない」などの指摘があった。限られた機会の中で、重要な情報をいかにバランスよく提供できるのかを追求していかなければならないと考えている。</p>
---	---	--	---

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
<p>強み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路自己実現に向けたきめ細かな指導が定着しつつあり、学校全体としての意識が少しずつ変わりつつある。生徒理解を進め、より良い進路実現のためのノウハウの探求が徐々に進んでいる。またそのことを生徒・保護者も実感している。 ・本校の状況をHPや地域の通信に定期的に継続して発信していることで、地域の本校への関心を高め連携をより一層深めることができている。 ・結果として、本校での様々な活動(生徒育成、クラブ活動、教科の活動など)に対し地域より温かい声かけがあり支援していただいている。 ・学年団が中心に課題のある生徒たちに「ねばり強い指導」が続けられている。そのことに関し保護者アンケートにも学校への強い信頼が感じられる記述が例年になく多い。
<p>弱み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な部分での教員の力量を高めようとする取組(進路検討会開催や様々な通信の共有化など)は当たり前になされるようになってきたが、広く学年の枠を超えて「自分は当事者である」という意識は高くない。まだまだOJTや授業力アップのための取組等は遅れている。 ・教員の年齢層は高く似通っていることが多いので、互いが指摘し合ったり、アドバイスし合うという部分が弱い。 ・部活動の重要性は認識されてはいるが、教員の年齢層が高い本校では、生徒・保護者の様々な期待に十分応えているとは言えない。

(3)組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

たった数年前、本校では多くの面で規律のない安易な学校生活を送られる事が多かった。「過去の姿には戻らない」という強い覚悟を持って西高改革に臨み4年が過ぎようとしている。徹底した生徒指導と丁寧な学習指導で、以前に比べれば多くの生徒たちが規範意識を高揚させ、互いを大切にする気持ちを持ちながら、目指す進路実現を図ろうとするようになってきた。しかし、改革当初の中核教員たちの西高を良くしていくという強い意志は、学校が落ち着いた状況になるにつれ陰を潜め、今の状況が当たり前だと思っている教員数が6割を超える今、様々な面で意識が低くなりつつあることは大きな課題である。

生徒に授業規律・生徒指導・社会的規範意識、挨拶などの基本的なマナーを身につけさせるなど、きちんとした指導を教員全員で再確認して仕切り直しを行いたい。また部活動指導に赴く教員数は減少している。年齢的な課題等もあるが、部活動の重要性を再認識し、何らかの具体的な取組を進める必要がある。

それには、明るいユーモアのある職場づくり・互いが互いを尊敬し大切に思いやることのできる雰囲気づくり、生徒の能力を引き出すための各々のノウハウの共有化など、日々の地道な取り組みが必要となる。キーになる教員を中心に全面的なバックアップを惜しまず、柔らかい動きのある職場の雰囲気を醸成していく努力を地道に続けていきたいと考えている。